

## 第 15 回伊那市誌編さん委員会議事録

開催日時	令和 6 年 1 月 19 日（金） 14 時 00 分～16 時 30 分
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出席者	編さん委員：15名（欠席：5名） 事務局：教育長、教育次長、室長、担当
会議目的	編さん業務委託業者の報告、編さん事業の工程及び組見本についての意見交換

### 【報告事項】

#### 1 編さん業務委託の業者について

- ・ 令和 7 年度末刊行の 4 冊を業務委託する業者について公募型プロポーザルを実施したところ、3 者から応募があった。12 月 8 日にプロポーザル選定委員会を開催してプレゼンを行ってもらった。その結果、(株) ぎょうせい関東支社に決定した。業務内容は、「企画業務」「資料の収集・整理」「編集業務」「市との連携に係る業務」「校正業務」「印刷・製本業務」になる。(事務局)
- ・ こちらからの出席要請には、万難を排して応えていくと言われているので、部会等でも必要があれば事務局に伝えてほしい。(委員長)

### 【会議内容】

#### \* (株) ぎょうせい担当者 3 名同席

#### 1 編さん事業の工程について

##### <検討課題>

- ・ (株) ぎょうせい作成の資料によると、令和 7 年度末に印刷・製本、納品を行うために、原稿の入稿を令和 6 年度の 10 月とし、以降、資料にあるような流れになる。今回 4 冊あるので、入稿時期によって作業スケジュールが変わってくる。今後、1 冊ごとの工程表が必要になる。(事務局)
- ・ 原稿のデータをメールで送れない場合、CD で提出してもよいか。(委員)  
現段階では未定であるが、容量が大きいものは CD での提出もあり得るのではないか。(事務局)
- ・ 入稿は原則データで行うとのことであるが、校正は紙で行うのか。(委員)  
校正は紙で行うことが基本になる。(委員長)

##### <決定事項>

- ・ 原稿はまず事務局へ提出してもらうことになる。提出の最小単位は「節」であるが、可能であれば「章」単位、または巻全体でお願いしたい。写真の提出は後になっても構わない。事務局に提出された原稿の流れは、事務局で作成した資料に示したとおりであるが、この一連の作業を初校、再校、3 校、色校と 4 回行うことになる。細かな部分は今後詰めていくことになる。(事務局)
- ・ どの巻のどの章や節を入稿したのか、執筆者や部会長がきちんと把握しておくとともに、事務局の受け取り担当者も明確にしておく必要がある。(委員長)
- ・ 部会でしっかり精査した原稿を入稿することが重要。部会や統括会での確認を経て、事務局に一本

化して入稿することになる。ベタ原稿でもよいが、文字数は読み込んでいかなければならない。写真は後送でよいが、原稿に位置や大きさを示しておきたい。内容面の校正は(株)ぎょうせいではなく、こちらで責任を持って行わなければならない。(副委員長)

- ・今回示した工程表はあくまでも一般的、平均的な内容。今後、個別の巻ごとに章や節の入稿予定日等を入れた進行管理表を作り、それを基に新たな工程表を作成していく。(株)ぎょうせい)

## 2 組見本について

### <検討課題>

- ・今までの執筆マニュアルでは、2段組み、20字×40行としてきたが、(株)ぎょうせいから、ルビを入れると行間が狭くなってしまうので、35行に変更してはどうかという指摘を受け、35行の組見本も作ってもらった。文字の大きさは16Q(11ポイント)、書体はリュウミンである。文字数、行数は、これから作業を進めるうえで基本になるので、今日の会議で決めていきたい。(事務局)
- ・今回の伊那市誌のコンセプトは、中高生にも読んでもらえるものにしたいとのこと。文字離れが進んでいる昨今、35行にして文字数を減らし、白スペースを多くとることで読みやすい紙面になると考え、今回の提案に至った。(株)ぎょうせい)
- ・35行の方が見やすいイメージがあるが、1ページあたり200字減ることになる。一方、40行だと余白や行間が狭まり、やや詰まったイメージになるか。(委員長)
- ・文化編の文化財の巻では、写真も入れていくので、35行になると書ける文字量が減ってしまう。分かりやすく説明するとなると、ある程度の文字量が必要。(委員)
- ・教育編は、一つの項目を見開きでまとめる方向で進めている。項目数が多く、35行では入りきらないので、今までどおり40行でお願いできないか。(委員)
- ・自然編では、専門用語についてはページ下段に用語解説を設け、本文の文字数を減らす方向で進めている。(委員)  
必要に応じて脚注を入れていきたい。(株)ぎょうせい)
- ・引用や解説、コラムなどはポイントを落として書いている。(副委員長)  
引用は改行してポイントを落とせば、多少なりとも文字数を増やすことができる。(株)ぎょうせい)
- ・書体については、ユニバーサルフォントが普及してきている。(株)ぎょうせいが携わった自治体誌で使用した例はないか。(委員)  
ユニバーサルフォントは、冊子というよりデザインものに多く使われている。見やすさの一方、長く読んでいると疲れてしまう印象がある。綾部市がユニバーサルフォント・カラーを使っているが、本文の書体はリュウミンを使用。節等の項目には、UFを使ってもよいか。(株)ぎょうせい)
- ・自然編ではできるだけ写真や図表を入れていきたい。書き手はたくさん書きたいが、読み手はなるべく読みたくないのが世間一般の通例なので、35行の方がよい。(委員)
- ・自然編では60%以上は写真や図表とし、残り40%を文章にあてていく。したがって、いかに短い文章で分かるように書くかがポイントになる。パッと見て理解してもらえる形がよいので、35行の方がよいと思う。ルビが見にくいので、1ポイント大きくするなどの工夫が必要か。(委員)  
ルビは一般的な大きさにしてあるが、もう少し大きくすることは可能。(株)ぎょうせい)

- ・分冊のメリットとして、基本線は決めておきながら、文字数の確保に重きを置くなど、編による特性を尊重していくことも可能ではないか。(委員長)
- ・35行のものは余白が広くもったいないが、自治体誌の一般的な余白はどれくらいか。(委員)  
サンプルはPDF版で若干縮小されているので、実際の余白はもう少し狭くなる。自治体誌の基本的なサイズは、文字の大きさはこれより一回り小さく、行数は35行ないしプラス1、2行である。文字量が少ないのが、昨今のトレンドである。(榊ぎょうせい)

#### <決定事項>

- ・35行2段組み、1,400字を基本とし、編による変更がある場合は、部会長会、統括会で審議し決定する。(委員長)

### 3 その他

#### (1) 「史・誌編集指示要領」について

##### <検討課題>

- ・「ですます調」や漢字などの字句は、事務局や榊ぎょうせいで校正、統一してもらえるのか。(委員)  
基本的には弊社で統一させてもらう。ただし、専門用語等、変えてはいけない部分もあるので、1冊ごとに統一できるようにルール決めをさせてほしい。(榊ぎょうせい)

##### <決定事項>

- ・統括会、事務局、榊ぎょうせいで検討して新たな執筆マニュアルを作り、委員会に提示していく。部会ごとに要望があれば出してほしい。(事務局)

#### (2) 全体をとおして

##### <検討課題>

- ・オールカラー版を活かした色使いや図表の形式をどうするか。項目のネーミングはできるだけ分かりやすく興味を持てるようなものにしていきたい。コラムのタイトルやデザインも検討課題。原稿執筆者は、最初の4冊に続く3冊も視野に入れておきたい。部会間で重複分野がある場合は、互いに意思疎通をして扱う視点を共有、調整していく必要がある。災害や女性史など負の歴史のほか、温暖化や生物多様性についても意見交換していきたい。各分野でドローン撮影がどれくらい必要になるか。地図化の際にどんな地図が必要になるか。近年、人権侵害や著作権の問題がよりシビアになってきているので、配慮が必要。調査費や原稿料等の財政的なフォローも明確にしていきたい。(副委員長)

##### <決定事項>

- ・各編で必要な項目の落としがないか、6月くらいまでに確認してほしい。(委員長)

#### (3) 地区誌について

##### <検討課題>

- ・概説編の最後に載せる地区誌の構成案について、西箕輪を例に作成してみた。地区担当者は、サンプルには固執せず各地区の項目案を作成してほしい。旧伊那市の8地区は各8ページ、高遠・長谷

は各 10 ページを目途としたい。(副委員長)

- ・地名編の中の各地区の記述についても確認をお願いしたい。(事務局)

**【その他】**

次回 第 16 回編さん委員会の日程について

期日は未定であるが、年度明けの開催を予定。